

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600778	事業の開始年月日	平成27年9月1日
		指定年月日	令和5年4月1日
法人名	医療法人社団 幸山会		
事業所名	グループホームプレシヤス橋本		
所在地	（〒252-0144） 相模原市緑区東橋本3-15-18		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年9月15日	評価結果 市町村受理日	令和7年2月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- 職員は入居者様のそれぞれの個性を大切にし、可能な限り入居者様がやりたいことや出来ることを継続できるよう支援している。
- 母体が医療法人であるため、体調の変化に迅速に対応できる協力体制があり、医療面で不安のない生活を送ることができる。
- 透析患者の受け入れを積極的に行っている。
- 毎日、健康体操や外気浴を行い、運動をしたり塗り絵や編み物、脳トレドリル、カラオケ等の楽しみを見つけて認知症状の進行防止を図っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年10月15日	評価機関 評価決定日	令和7年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、J R横浜線「橋本」駅から徒歩10分の住宅街の一角にあります。周囲には公園や寺院があり、利用者は散歩を楽しんでいます。隣には同一法人の介護付き有料老人ホームがあり、行事等と一緒にこなうこともあります。医療法人による経営で、利用者の体調の変化には迅速に対応できるようになっています。

＜優れている点＞

職員間の関係性がよく、話し合ったり、様々な事で協力したりすることが頻繁に行われています。食事の支援のあり方について利用者の立場や介護者の思いについてなどを真摯に話し合っています。シフト変更などは、お互い様の精神で職員同士が協力しています。地域との関わりを大切にしています。保育園児から花や収穫祭の野菜をもらったり、施設からは子どもたちにヨーヨーや綿あめの提供を行ったりしています。また、消防訓練では参加した近所の人と一緒に水消火器の使い方を練習するなどしています。

＜工夫点＞

隣接する同一法人の有料老人ホームと一緒に2ヶ月に1度栄養委員会を開催しています。委員会では提供している食事の感想や対策を話し合い、握りずし、おでん、シラス丼などの行事食を検討し、利用者が食事を楽しめるようにしています。また、「みんなの日曜日」として、カレーや牛丼などの出前をとり、利用者が楽しむと共に職員が休めるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームプレシャス橋本
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「愛情」「記憶」「地域」の輪を繋げ地域社会に貢献するという理念を掲げて、より良い施設運営を目指している。理念は施設入口に掲示し、職員間で共有している。	理念の作成者は理事長です。職員は週1回スローガンを唱和し、理念の共有に努めています。利用者が自宅にいる感覚で事業所で過ごせるよう、職員は家族のように温かく接しています。自分のことは自分でできるよう、記憶の呼び起こしを手伝っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、地域の防災訓練やお祭り等の予定を運営推進会議でご連絡いただいている。祭りのお神輿見物や近くの保育園の園児との交流を入居者様は楽しみにされている。	運営推進会議を通して事業所の様子を地域に伝えています。防災訓練実施のお知らせをしたり、利用者が祭りの神輿見物をしています。コロナ禍では近くの保育園との交流はガラス越しでしたが、今年度は屋外で出迎え、交流することができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナ感染症予防対策の為、地域の方々への認知症やその支援方法に対するご理解を得る場は、運営推進会議に限られている状況である。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、施設内で起こった事故報告や行事報告を行っている。事故報告をご家族や第三者に行いご意見を頂くことで、職員の気付きや意識改革に繋げている。	運営推進会議での転倒事故増の報告に対し、参加者からは人員が足りていないのではないかと の意見が出されています。意見を踏まえ、法人と相談の上、実習生を2名雇用しています。実習生は職場に入る前に認知症介護基礎研修を受講しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の出席をお願いしており、会議でアドバイスやご意見を伺っている。	地域包括支援センターから感染症対策についてのアドバイスや、他施設の情報をもらい、情報を基に事業所内の取り組みを考えています。また、入居者に関する実情を伝え、安定した事業所運営が行なえるようアドバイスを受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束は行っていない。定期的に身体拘束に関する研修や委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践しています。ドアストッパーのクッションをつけて、夜間動きのある利用者のドアの開閉が他の利用者の睡眠の妨げにならないよう工夫しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修によって、虐待防止の知識の習得に努めている。職員同士で不適切なケアが起きないように声掛けができる協働体制を目指している。	虐待対策検討委員会では言葉遣いの問題や、食べたくない利用者に食事を勧めるなど、利用者への支援の在り方がグレイゾーンになっていないかなどを話し合っています。利用者の意思を確認しながら、無理強いをしないケアを行ない、虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度については、職員に資料を配布し、研修を行っている。以前は後見人制度を活用されていた方がいらしたが、現在は制度を利用されている入居者様はいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には入居者様、ご家族と重要事項説明書等の読み合わせをしながら内容についてご説明を行っている。また、改定等についてはその都度文書でお知らせを行い、ご理解・ご了承を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の運営に関するご意見は、運営推進会議に出席された際に伺っている。また、入居者様との面会の際や、お手紙等でご意見を頂くこともある。	家族からは利用者の普段の様子が見たいとの要望が出されています。面会時には写真を見ながら利用者の発語の様子や動きを説明しています。家族からコロナ抗原検査や予防接種に関する情報を手紙で知らせてもらったこともあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は毎日他の職員と一緒に入居者様のケアに入っており、気軽に職員の意見や提案を聞く機会がある。必要があればそれを本部に提案している。	管理者、統括責任者は毎日事業所内を見回り、職員から意見を聞いたり相談に乗ったりしています。職員から、空気の循環を良くするための扇風機や空気清浄機の購入が提案されています。統括責任者が法人と交渉し購入に至っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の個々の実績や勤務態度を把握し、給与査定に反映させている。また、職員それぞれの事情に留意して働きやすい職場環境を目指している。	個々の勤務成績により、給与の査定を設けています。給与基準の確認ができていない職員も中にはいます。子どもが小さいなど職員の家庭状況により“4時あがり”の勤務にしたり、急病時には勤務の交代をしたりして、働きやすい環境を作っています。	人事考課制度、就業規則等、職員自身がいつでも確認することができ、向上心を持って働ける環境作りが期待されます。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は職員と一緒に現場業務入ること、職員個々の力量を把握し、介助技術や入居者様との関りについて指導・助言を行っている。また、ケアマネ研修や実践者研修等に参加しやすいように、勤務日の調整や費用の一部補助を行っている。	月1回研修が行なわれ、現場で必要とされる知識やスキルが得られるようにしています。新任の職員は、認知症介護基礎研修や虐待防止の研修を受けた後に業務に就くようにしています。技能実習生もいるため、日本語検定試験を目指せるようにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に出席し、他のグループホームとの情報共有を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所される前に面談を行いアセスメントを作成し、生活環境、身体状況、既往症等を職員で共有し、声掛けや傾聴を行いながら入居者様の意向や思いを理解し信頼関係を築いていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族が不安に思っていることや要望を伺い、丁寧にお答えをしている。入居後は入居者様の様子を密に電話で報告することで気軽に相談できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様の状況を確認し、医療職の意見も含めた上で今必要なサービスは何か、どのように進めていくのか職員で話し合いを行い対応考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、その中で入居者様一人一人が出来る事、出来ない事を見極め共に支え合い生活する関係が築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添えるよう、入居者様の日頃の様子や暮らしの出来事をご家族に報告して信頼関係が築けるよう努めている。職員は中立的な立場で入居者様とご家族の間に立ち支援を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナ感染予防の為、面会は近親者のみに限定させていただいている。	コロナ感染予防のため、面会、外出は未だ制限されている状況です。面会は事前予約の上、20分程度、3人までとなっています。家族から利用者への電話はいつでも繋いでいます。利用者から家族への電話は不都合な時間帯でない限り繋いでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性ややり取りを観察しリビングに座席配置を決めたり等、穏やかに過ごしていただける環境作り、雰囲気作りに努めている。また、入居者様が孤立することがないように職員が声掛けして間に入り入居者様同士の交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	コロナ禍は続いており、入院や退居後に面会や近況の問い合わせをするのは難しい状況ではあるが、先方の施設や病院の問い合わせに応じて情報提供等したり、電話で近況をご家族に伺い関係性を持つように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様のお話を傾聴したり、表情や行動を観察することで思いや意向の把握に努めている。また、得た情報は職員間で共有し日々の支援に活かしている。	職員は、利用者が眠れない時にはベッドの傍で話を聞いたり、入浴前に服を脱ぎながらポツリポツリ話すことに耳を傾けたりして、利用者の思いや意向の把握に努めています。聞き取った内容は連絡帳に記載すると共に、ミーティングで他の職員と共有し、支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に作成したアセスメントを職員間で共有し、既往症、出身地や生活歴を把握し、また会話や写真を一緒に見たりすることで旅行、家族やペットの思い出等これまでの暮らしの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士での申し送りを行い、入居者様の日々の暮らしぶりや体調を情報共有し、意見交換を行っている。睡眠、排泄、嚥下歩行状態などを記録し、異常があれば訪問看護師に報告相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、本人、ご家族、医療関係者の意見、要望を伺い、職員で話し合いをして現状に即した介護計画書を作成している。	ケアプランは、長期目標を1年、短期目標を6ヶ月とし、医師、職員、家族の意見を反映させケアマネジャーが作成しています。主治医の勧めで専門医の検査を受けた結果、大病が発見され、その後は家族の要望に沿い、医療機関と連携を取りながら、事業所で生活したという例があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様個々の介護記録を作成し日々の生活の様子を記録している。往診時の指示や特記事項は連絡ノートに記入し申し送りして職員間で情報共有している。受診、退院やADLに変化があった場合は担当者会議を開き、必要に応じてプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービス以外に家族の状況に応じて、医療機関への通院介助や買い物代行、行政手続き代行等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ感染症対策は続けており、地域の方々との交流は難しい状況だが、散歩に出かけた際は挨拶を交わしたり、施設前に花を栽培して地域の方に楽しんでいただいている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の母体医療法人の往診と訪問看護を隔週で受けている。また、希望者は訪問歯科の受診を行っている。	隔週の主治医の訪問診療と訪問看護、週1回訪問歯科を受診しています。訪問歯科は要望があれば、毎回歯のクリーニングなどの口腔ケアを受けることができます。夜間はオンコール対応で、主治医から適切な処置を速やかに受けることができます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は日頃の入居者様の生活状況を訪問看護師に相談し、助言や指示をもらっている。また、入居者様の健康状態やバイタル異常がみられた時は、訪問看護師に報告し主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医の紹介状、アセスメント表等で情報提供を行っている。入院中や退院時には病状の問い合わせやムンテラへの出席を行い、病院関係者との連携を取り、退院に向けた支援を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人様、ご家族の意向を踏まえ、主治医、訪問看護師、職員が連携を取り、安心した終末期が過ごせるように支援を行っている。	入居時に家族に重度化になった際の対応の説明を行っています。医師の指導の下、その都度方針を定め、主治医から家族に改めて説明を行い、同意を得て支援に当たっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成して、対応方法を職員間で共有している。また、いざという時に落ち着いて行動できるように研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法等の訓練を定期的に行っている。避難訓練の際は自治会や近隣の方にお知らせをし、消化活動の訓練に参加してもらい協力体制を築けるように努めている。	防災訓練は、隣接する同一法人の有料老人ホームと合同で、近隣住人も参加して行っています。「防災委員会」では訓練の結果を基に反省点などを検討し、安全策へと繋げています。3年に1度、消防署と合同で大規模な避難訓練を行っています。	災害備蓄品の在庫リストがありません。今後、作成し管理することが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	権利擁護とプライバシーの尊重については勉強会を実施して職員の理解を深めている。また、排泄介助、入浴介助等でのプライバシー保護については不適切なケアや言動がないよう職員同士でお互いに声掛けし注意し合っている。	利用者を人生の先輩として敬い、言動に気を付けています。トイレ誘導や入浴、更衣時では、プライバシーを確保し、周りに配慮して行っています。入浴は要望があれば同性介助をしています。職員は研修を通じて対応を学び、実践に繋げています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の表情を読み取るよう努力したり、「どちらにしますか？」等の答え易い質問に変えて問いかけを行い、入居者様本位の決定が出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のその日の体調や気持ちを考慮した上で、これから一緒に行いたいことを説明、提案してから本人の希望に沿ってケアを行うように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節や天候に合わせて職員と一緒に衣服を選んで更衣介助の支援を行っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	感染症対策の為、入居者様が食事作りをしていただくことは控えている。テーブル拭きや配膳、食器洗い等は入居者様にもお手伝いをさせていただいている。	管理者、「栄養委員会」が立てた献立をキッチンで調理し提供しています。調理や片付けの一部を利用者と職員が協力して行っています。「みんなの日曜日」と称して、カレーライスや寿司、おでんを出前するなど、食を楽しむ工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量を毎日記録に残しており、摂取が進まない入居者様には、お好みの食べ物や飲み物の提供を検討したり、往診医に栄養補助食品の処方を依頼したりして支援を行っている。また嚥下状態を観察し、状態にあった形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きが自分でできる入居者様は声掛けを行い歯磨きをしていただき、最後に職員が観察して仕上げ磨きを行っている。介助が必要な方は、歯磨き、確認、義歯洗浄等の支援を行っている。口腔内のクリーニングや炎症・虫歯・義歯調整等は訪問歯科にその都度相談して指示をいただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を記録し、個々の排泄パターンを把握して、その方にあった時間に声掛け、誘導を行っている。少しでも立ち上がりができる方には、職員2人でトイレで排泄して頂けるように介助を心掛けている。	職員は排泄チェック表で記録し情報共有を行っています。定期的なトイレ誘導を個々に行っています。失禁することが増えた利用者にはトイレ誘導を的確に行った結果、パット交換の回数が減り歩行状態も改善しています。重度化を予防する支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便チェック表に記録を行い、排便の有無や状態を確認している。日常的に水分摂取を多くしていただいたり、腹部マッサージや体操、散歩等を一緒に行って便秘予防に努めている。便秘症状が続く場合は、往診医に相談して指示を仰いでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を拒む方や気分がすぐれない時は、無理強いせずタイミングをずらしたり声掛けや入浴剤の変化等対応の工夫をしてここにに応じた入浴支援を行っている。	基本的に入浴時間や回数は決まっていますが、利用者に合わせ適宜対応しています。シャワー浴時は足元が冷えないよう足湯をしています。入口に「プレシャス湯」という銭湯のような看板を掲げ、楽しんで浴室に行く工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は健康体操やレク活動に参加を勧めて生活リズムを整えていただけるよう努めている。傾眠がちな時や活気がない時は状況に応じて仮眠やお昼寝等をして休息をとって頂いている。夜間は温度管理、掛布団の調節等、個々の入眠パターンに合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は入居者が服薬されている薬の効能を個々に把握し、症状の変化に応じて看護師や主治医と連絡を取り的確な服薬支援を行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体力的に無理のない範囲で職員と一緒に家事のお手伝いをお願いし、その都度感謝の言葉をお伝えしている。また、毎日コーヒーや紅茶とお菓子を召し上がって頂いたり、毎月の行事食や宅配弁当や出前を取り寄せて召し上がっていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症予防のため、外出レクリエーションは中止している。天気の良い日には、一人ずつ職員と一緒に施設周辺の散歩を行なっている。	コロナ感染対策のため、人が多い場所への外出は控えています。外気浴や紅葉がきれいな近所の寺への散歩は日常的に行っています。春は近所の川に花見散歩に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお金（お小遣い）を預かり事務所で管理している。コロナ感染症予防のため、外出や買い物は中止となっているが、希望に応じて施設前の自動販売機で飲み物を選んで購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話を掛けたい、あるいは家族から電話が掛かってきた際は、電話の取次ぎを行なっている。また、家族や友人からの手紙は職員が一緒に読み上げる等の支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	感染症対策として、1日2回の手すり消毒やトイレ清掃を行っている。リビングや廊下は職員と入居者様で協力して毎日清掃を行っている。また、リビングに季節の壁画を入居者様と作成して飾っている。	共有スペースは、淡いピンクの小花柄の壁紙、焦茶色の床とドアで優しく落ち着いた空間となっています。季節ごとにレクリエーションで作成した折り紙の作品や習字の作品、ぬり絵を飾り鑑賞しています。リビングでは毎日リハビリ体操やタオル体操を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事時間以外は、入居者様同士で談話やテレビを楽しんでいただけるようにリビングの座席を固定せずに誰でも好きな場所に座れるように配慮している。また、見守りを行いながら居室で過ごされる時間も大切にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、明るさの調節が可能な照明、エアコン、電動ベットが配置されている。またテレビ、仏壇、ドレッサー等の思い入れのある家具やぬいぐるみを持ち込み、居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	利用者の好きなぬいぐるみを置くなど、居心地よく過ごせるようにしています。転倒の危険性がある利用者の居室に就寝時、床にクッション性のマットを敷いたり、ぶつかって怪我をしないよう家具の配置を考えて環境整備を行っています。週2回職員が掃除を行い、居室をきれいに保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニバーサルデザインを活かし、トイレやお風呂場の場所を視覚を通じて分かりやすい大きな文字や絵で表示している。入居者様が安全に移動できるように事故防止について委員会や担当者会議で話し合い環境整備を行なっている。		

事業所名	グループホームプレシャス橋本
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「愛情」「記憶」「地域」の輪を繋げ地域社会に貢献するという理念を掲げて、より良い施設運営を目指している。理念は施設入口に掲示し、職員間で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、地域の防災訓練やお祭り等の予定を運営推進会議でご連絡いただいている。祭りのお神輿見物や近くの保育園の園児との交流を入居者様は楽しみにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、地域の方々への認知症やその支援方法に対するご理解を得る場は、運営推進会議に限られている状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、施設内で起こった事故報告や行事報告を行っている。事故報告をご家族や第三者に行いご意見を頂くことで、職員の気付きや意識改革に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の出席をお願いしており、会議でアドバイスやご意見を伺っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束は行っていない。定期的に身体拘束に関する研修や委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修によって、虐待防止の知識の習得に努めている。職員同士で不適切なケアが起きないように声掛けができる協働体制を目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度については、職員に資料を配布し、研修を行っている。以前は後見人制度を活用されていた方がいらしたが、現在は制度を利用されている入居者様はいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には入居者様、ご家族と重要事項説明書等の読み合わせをしながら内容についてご説明を行っている。また、改定等についてはその都度文書でお知らせを行い、ご理解・ご了承を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の運営に関するご意見は、運営推進会議に出席された際に伺っている。また、入居者様との面会の際や、お手紙等でご意見を頂くこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は毎日他の職員と一緒に入居者様のケアに入っており、気軽に職員の意見や提案を聞く機会がある。必要があればそれを本部に提案している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の個々の実績や勤務態度を把握し、給与査定に反映させている。また、職員それぞれの事情に留意して働きやすい職場環境を目指している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は職員と一緒に現場業務入ること、職員個々の力量を把握し、介助技術や入居者様との関りについて指導・助言を行っている。また、ケアマネ研修や実践者研修等に参加しやすいように、勤務日の調整や費用の一部補助を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に出席し、他のグループホームとの情報共有を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所される前に面談を行いアセスメントを作成し、生活環境、身体状況、既往症等を職員で共有し、声掛けや傾聴を行いながら入居者様の意向や思いを理解し信頼関係を築いていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族が不安に思っていることや要望を伺い、丁寧にお答えをしている。入居後は入居者様のご様子を密に電話で報告することで気軽に相談できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様の状況を確認し、医療職の意見も含めた上で今必要なサービスは何か、どのように進めていくのか職員で話し合いを行い対応考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、その中で入居者様一人一人が出来る事、出来ない事を見極め共に支え合い生活する関係が築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添えるよう、入居者様の日頃のご様子や暮らしの出来事をご家族に報告して信頼関係が築けるよう努めている。職員は中立的な立場で入居者様とご家族の間に立ち支援を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナ感染予防の為、面会は近親者のみに限定させていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性ややり取りを観察しリビングに座席配置を決めたり等、穏やかに過ごしていただける環境作り、雰囲気作りに努めている。また、入居者様が孤立することがないように職員が声掛けして間に入り入居者様同士の交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	コロナ禍は続いており、入院や退居後に面会や近況の問い合わせをするのは難しい状況ではあるが、先方の施設や病院の問い合わせに応じて情報提供等したり、電話で近況をご家族に伺い関係性を持つように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様のお話を傾聴したり、表情や行動を観察することで思いや意向の把握に努めている。また、得た情報は職員間で共有し日々の支援に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に作成したアセスメントを職員間で共有し、既往症、出身地や生活歴を把握し、また会話や写真を一緒に見たりすることで旅行、家族やペットの思い出等これまでの暮らしの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士での申し送りを行い、入居者様の日々の暮らしぶりや体調を情報共有し、意見交換を行っている。睡眠、排泄、嚥下歩行状態などを記録し、異常があれば訪問看護師に報告相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、本人、ご家族、医療関係者の意見、要望を伺い、職員で話し合いをして現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様個々の介護記録を作成し日々の生活の様子を記録している。往診時の指示や特記事項は連絡ノートに記入し申し送りして職員間で情報共有している。受診、退院やADLに変化があった場合は担当学会議を開き、必要に応じてプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービス以外に家族の状況に応じて、医療機関への通院介助や買い物代行、行政手続き代行等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ感染症対策は続けており、地域の方々との交流は難しい状況だが、散歩に出かけた際は挨拶を交わしたり、施設前に花を栽培して地域の方々に楽しんでいただいている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の母体医療法人の往診と訪問看護を隔週で受けている。また、希望者は訪問歯科の受診を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は日頃の入居者様の生活状況を訪問看護師に相談し、助言や指示をもらっている。また、入居者様の健康状態やバイタル異常がみられた時は、訪問看護師に報告し主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医の紹介状、アセスメント表等で情報提供を行っている。入院中や退院時には病状の問い合わせやムンテラへの出席を行い、病院関係者との連携を取り、退院に向けた支援を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人様、ご家族の意向を踏まえ、主治医、訪問看護師、職員が連携を取り、安心した終末期が過ごせるように支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成して、対応方法を職員間で共有している。また、いざという時に落ち着いて行動できるように研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法等の訓練を定期的に行っている。避難訓練の際は自治会や近隣の方にお知らせをし、消化活動の訓練に参加してもらい協力体制を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	権利擁護とプライバシーの尊重については勉強会を実施して職員の理解を深めている。また、排泄介助、入浴介助等でのプライバシー保護については不適切なケアや言動がないよう職員同士でお互いに声掛けし注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の表情を読み取るよう努力したり、「どちらにしますか？」等の答え易い質問に変えて問いかけを行い、入居者様本位の決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のその日の体調や気持ちを考慮した上で、これから一緒に行いたいことを説明、提案してから本人の希望に沿ってケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節や天候に合わせて職員と一緒に衣服を選んで更衣介助の支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	感染症対策の為、入居者様が食事作りをしていただくことは控えている。テーブル拭きや配膳、食器洗い等は入居者様にもお手伝いをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量を毎日記録に残しており、摂取が進まない入居者様には、お好みの食べ物や飲み物の提供を検討したり、往診医に栄養補助食品の処方依頼したりして支援を行っている。また嚥下状態を観察し、状態にあった形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きが自分でできる入居者様は声掛けを行い歯磨きをしていただき、最後に職員が観察して仕上げ磨きを行っている。介助が必要な方は、歯磨き、確認、義歯洗浄等の支援を行っている。口腔内のクリーニングや炎症・虫歯・義歯調整等は訪問歯科にその都度相談して指示をいただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を記録し、個々の排泄パターンを把握して、その方にあった時間に声掛け、誘導を行っている。少しでも立ち上がりができる方には、職員2人でトイレで排泄して頂けるように介助を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便チェック表に記録を行い、排便の有無や状態を確認している。日常的に水分摂取を多くしていただいたり、腹部マッサージや体操、散歩等を一緒に行って便秘予防に努めている。便秘症状が続く場合は、往診医に相談して指示を仰いでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を拒む方や気分がすぐれない時は、無理強いせずタイミングをずらしたり声掛けや入浴剤の変化等対応の工夫をしてここに応じた入浴支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は健康体操やレク活動に参加を勧めて生活リズムを整えていただけている。傾眠がちな時や活気がない時は状況に応じて仮眠やお昼寝等をして休息をとって頂いている。夜間は温度管理、掛布団の調節等、個々の入眠パターンに合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は入居者が服薬されている薬の効能を個々に把握し、症状の変化に応じて看護師や主治医と連絡を取り的確な服薬支援を行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体力的に無理のない範囲で職員と一緒に家事のお手伝いをお願いし、その都度感謝の言葉をお伝えしている。また、毎日コーヒーや紅茶とお菓子を召し上がって頂いたり、毎月の行事食や宅配弁当や出前を取り寄せて召し上がっていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症予防のため、外出レクリエーションは中止している。天気の良い日には、一人ずつ職員と一緒に施設周辺の散歩を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお金（お小遣い）を預かり事務所で管理している。コロナ感染症予防のため、外出や買い物は中止となっているが、希望に応じて施設前の自動販売機で飲み物を選んで購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話を掛けたい、あるいは家族から電話が掛かってきた際は、電話の取次ぎを行なっている。また、家族や友人からの手紙は職員が一緒に読み上げる等の支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	感染症対策として、1日2回の手すり消毒やトイレ清掃を行っている。リビングや廊下は職員と入居者様で協力して毎日清掃を行っている。また、リビングに季節の壁画を入居者様と作成して飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事時間以外は、入居者様同士で談話やテレビを楽しんでいただけるようにリビングの座席を固定せずに誰でも好きな場所に座れるように配慮している。また、見守りを行いながら居室で過ごされる時間も大切にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、明るさの調節が可能な照明、エアコン、電動ベットが配置されている。またテレビ、仏壇、ドレッサー等の思い入れのある家具やぬいぐるみを持ち込み、居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニバーサルデザインを活かし、トイレやお風呂場の場所を視覚を通じて分かりやすい大きな文字や絵で表示している。入居者様が安全に移動できるように事故防止について委員会や担当者会議で話し合い環境整備を行なっている。		

2024年度

事業所名 グループホームプレシヤス橋本
作成日： 2025年 2月 24日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	9	人事考課制度、就業規則等、職員自身がいつでも確認することができ、向上心を持って働ける環境作りが期待されます。	職員が人事考課制度や就業規則等をいつでも確認できることで、やりがいや向上心を育むことができる。	職員がいつでも確認できるように、事務室のタイムレコーダーの横に人事考課制度や就業規則等のファイル置き、掲示することで職員への周知を図っていく。	1 ヶ月
2	16	災害備蓄品の在庫リストがありません。今後作成し管理することが期待されます。	災害時に備え、水や食料の備蓄品のリストを作成し、在庫・使用期限等の管理を行っていく。	有料老人ホームと合同で運営されている防災委員会で備蓄品のリストアップ、在庫チェック表を作成して管理を行っていく。	3 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月